岩屋中だより

令和６年2月22日　NO25
発行　長崎市立岩屋中学校
文責：校長　川口　猛

校内に掲示された青春を感じさせる若者の『心』・・・

島崎藤村　『初恋』の学習

島崎藤村は明治から昭和に存在した有名な詩人・小説家です。３年生の国語科の学習内容の中に島崎藤村の『初恋』という詩があります。その詩の学習を通して、生徒も初恋をテーマに詩をつくっています。

淡い恋心が表現されていていたり、甘酸っぱい恋心、喜び・悲しみなど複雑な恋心が表現されています。青春時代を生きる生徒たちだからこそ感じる心の動きが見事に詩にまとめています。先ず、国語科の学習に出てくる島崎藤村の『初恋』を紹介します。

島崎藤村「初恋」（詩集『若菜集』より）

一
まだあげ初（そ）めし前髪の
林檎（りんご）のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛（はなぐし）の
花ある君と思ひけり

二
やさしく白き手をのべて
林檎りんごをわれにあたへしは
薄紅（うすくれなゐ）の秋の実に
人こひ初（そ）めしはじめなり

三
わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃（さかずき）を
君が情（なさけ）に酌（く）みしかな

四
林檎畠の樹（こ）の下に
おのづからなる細道は
誰（た）が踏ふみそめしかたみぞと
問（と）ひたまふこそこひしけれ

口語訳

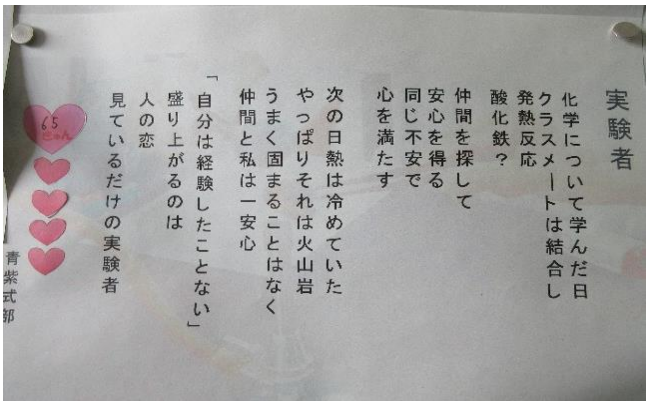
一
林檎の樹の下に見えた。
前髪に刺している花模様の櫛くし
君はまるでその花のように美しいと思った
（君の前髪に花が咲いているようだと思った、という解釈もある）

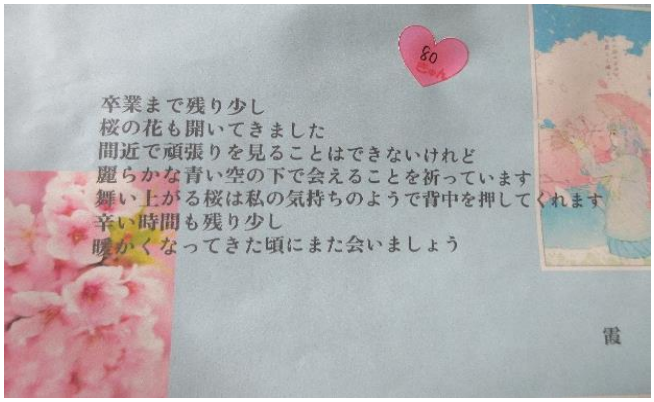
白い手をやさしくこちらに伸ばして
林檎を僕にくれたね。
薄紅（うすくれない）の秋の実（林檎のこと）に
そのとき僕は恋をしたんだ
（つまり、「君に恋をした」という意味）

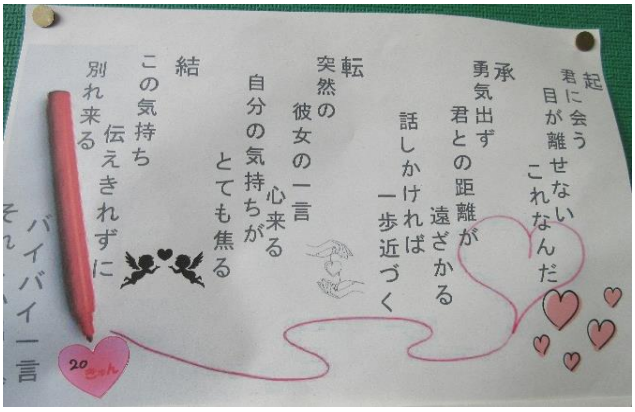
三
僕がふと　もらしたためいきが
君の髪にかかった。
（ためいきがかかるくらい距離が縮まっている）
君が僕の恋心を受け入れてくれたから
（恋が実ったという意味）
こんなに楽しい恋の酒に酔よいしれることができるんだ

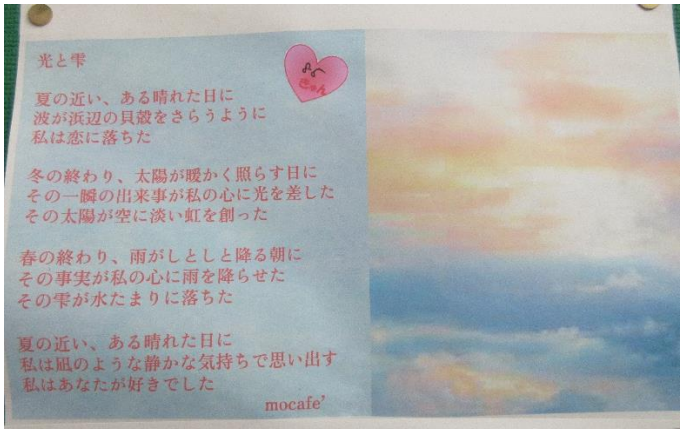
四
林檎畠の樹の下に
自然に出来たこの細道のことを
（二人がいつもここに会いにやってきていたからできた道）
どうしてこの道が出来たの？？と
（わかっていて、わざと聞いている）
僕に聞く君のことがまた恋しいと思うんだ
（いたずらっぽい少女を、また愛おしく思っている）

生徒の作品を紹介します。（見えづらい部分もあるかと思いますが、ご了承ください）









淡い恋心を詩に表現している作品ばかりで、子どもの純粋な心を感じます。生徒一人一人が文学者としての才能を発揮していると思います。心が癒される学習の成果です。いつの世も、青春というものは良いものです。

次号でも紹介します。

学校ホームページのＷＥＢ版はカラーで見ることができます。